

足立学園中学校

算数

大問は5～6題で、設問は20～25問です。①は整数・小数・分数の四則計算と、□の値を逆算で求める問題が中心になっています。②は短文の文章題で、旅人算や仕事算、図形の数値や面積などです。③～⑤は応用問題で、速さや水量、面積・体積などの変化の様子をとらえる力や、数の性質や周期性に着目して、ある規則を発見する力などを求めています。図形では、比例の考えを利用して解く力、点や図形を回転・移動させたときの様子をとらえる力、立体図形の体積や切断面を考える力を見る問題を出題しています。

国語

①が漢字の書き取りと読み、②が文学的文章（小説）、③が説明的文章（評論や随筆）の3題で構成されています。文学的文章の読解では、登場人物の人間関係、主な出来事による登場人物の気持ちの変化が把握できているかどうかを見ます。説明的文章では、筆者の主張を読み取れるかどうかのポイントです。また、②と③では語彙問題を出題するので注意しましょう。

理科

一般入試はこれまでどおり、大問は5題で4分野からまんべんなく出題します。特別奨学生入試は大問3題で、①と②はそれぞれ4分野のなかの1分野から出します。③は総合問題です。いずれの入試も、①文章の読み取りとそのなかの理科的現象の理解、②理科的用語の意味の理解、③グラフや表の読み取り、④実験に関する操作・装置・器具の理解、⑤観察した自然現象を頭の中でイメージし、それを文章や図で表現できる力などを重視します。

社会

3分野の広い範囲からまんべんなく、基礎的な問題を中心に3題出題するので、小学4年生以降の教科書をしっかり復習しておきましょう。公民は時事問題をリード文にして出題するケースが多くなっています。歴史は幅広い時代・分野から出題します。教科書をよく読み、時代ごとにまとめておきましょう。また、地理を中心とする総合問題を出題するので、都道府県ごとの形、代表的な産業、歴史上の人物、文化などに関する内容を整理しておきましょう。

その他関連情報

特別奨学生入試（午後入試）の問題は、一般入試（午前入試）より多少難しくなります。ただし、出題傾向は上記の内容とほぼ同じです。

海城中学校

算数

十二分な計算力を問います。幅広いテーマの問題で思考力と処理能力を試します。

国語

まず、長文読解の力が必要となります。全文を通した文章の展開や心情の流れを把握することが大切です。出題は論理的な文章と感情的な文章の各1題が基本となります。記述式の問題も含まれるので、抜き出しができる力だけでなく、まとめて表現する力も養っておいてください。そのほか、ことばや国語の基本的知識も十分に学習しておいてください。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から均等に出題するので、小学校で学ぶ知識をもとに、幅のある応用力を身につけてください。また、的確な論述力も必要となります。

社会

地理・歴史・公民の3分野を融合した論述問題が中心になっているので、地理や公民も、歴史との関係で学習しておくといでしょう。歴史は日本の歴史が中心ですが、日本と世界との関係も重視しています。地理・公民は時事的な視点も入れています。各分野の基本的な知識は覚えておく必要がありますが、やたらに細かい丸暗記は必要ありません。それよりも、できるだけ興味を持って考え、資料を読み取って問題点を的確に表現できるような力を育てておいてください。

学習院中等科

算数

大問数は例年と同様 6 題で、計算問題と基本的な文章問題、応用問題という構成で出題する予定です。ほとんどの文章問題には部分点があります（答えのみを書いても、ほとんど点になりません）。

国語

説明的文章と文学的文章の 2 系統から出題することが多くなっています。漢字の学習をしっかりやっておくとよいでしょう。記述式の問題の対策も大切です。

理科

環境分野も含め、全分野から出題します。実験・観察・観測の結果の解釈も重視します。最近、話題になった科学・技術分野の出来事からも出題します。

社会

地理的分野・歴史的分野・公民的分野をほぼ均等に出題することで基礎的な知識を問い、多角的に出題することで社会的現象をとらえる力を見ます。

京華中学校

算数

中学校の数学の授業を理解できる基礎力があるかどうかを見るために、四則演算、基礎的な小問を出題します。大問は難問ではなく、設問文を読んで理解し、物事を明確にとらえて数式に直して計算できるかを試す問題です。

国語

3000 字程度の長さの文学的文章と説明的文章を 1 題ずつ出題します。登場人物の心情把握、理由の説明については選択肢や記述形式で出題し、傍線部のことばの言い換えの抜き出し問題や、具体的な説明を問う形式の問題もあります。また、小学 5・6 年生で習う漢字の読みと書きを独立して出題します。

理科

物理・化学・生物・地学の全分野からまんべんなく出題し、基本的な知識・計算力・理解力を問います。また、知っていれば解けるような問題だけでなく、文章や資料から情報を読み取り、科学的に分析し、考察する力を測る問題も出題します。

社会

一つのテーマに沿った文章から、空欄補充や下線が引かれた語句について問う問題を出します。地理・歴史・公民分野それぞれ単独、あるいは融合した問題になります。図や写真を提示し、時事問題なども出題します。地名や人名について漢字で書けるものは、すべて漢字で解答できるようにしておいてください。

攻玉社中学校

【第1回・第2回】

算数

大問4題の出題を予定しています。①は基本的な計算問題（分数や小数の四則演算、空欄補充、約束記号など）、②は小問集合（算数全般に関する問題）、③は文章題（時間と速さ、連続的に変化するものなど）、④は図形（相似に関する比、連比・面積の計算、立体の表面積・体積など）を、それぞれ出題する予定です。解答のみを採点し、途中式は部分点の対象としません。定規・コンパスは持ち込み可です。分数は「帯分数」「仮分数」とともに○にしていますが、約分忘れは減点します。比の形で答えるときは、「最も簡単な整数の比で」という指定をしています。また、小数点の桁の間違いについては、減点ではなく×とします。「cm」や「分」など、答えに単位が必要な問題については、解答欄に単位を記載してあります。

国語

漢字の読み書きの問題、慣用句などの幅広い日本語の知識を問う問題と文章題を出題しています。文章題は、文学的な内容のものと、論理的な内容のものと2題を出題し、記述力も含めてさまざまな観点から国語力を問うようにしています。漢字に関しては「とめ・はね」まできちんと書いてください。日ごろから辞書などを使い、語彙を増やしておくとういでしょう。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から大問1題ずつ、計4題の出題です。第1回・第2回ともに、各分野の出題順は決まっていますが、なるべく取り組みやすい問題を第1問にしています。配点も均等に、各分野12点か13点で合計50点です。本校入学後、実験・観察を中心に授業を展開していくこともあり、実験・観察を題材にした問題が多くなっています。また、自然に対して興味・関心があることを望んでいるので、特に生物・地学の分野では、教科書の内容を超えた知識や時事的な知識を問うことがあります。物理分野では、基本的な問題とともに、やや応用的な思考力や計算力を見る問題も出題します。化学分野では、実験に関する問題を中心に、化学の学習を進めるうえでの基礎となる、物質の性質に関する問題を繰り返し出題しています。生物分野では、基本的な知識とともに、身の回りの自然や、新聞などに載っている時事的な内容に関する問題を、地学分野では、実際の観察・観測に関する問題や、日常の地学分野の知識を問う問題を出題します。4分野ともに、過去の問題をできるだけ多く解き、対策をしておくことが大切です。

社会

大問は二つです。①は歴史分野と公民分野を中心とした問題です。②は地理分野を中心とした問題で、資料を読み取るものなどがあります。過去問対策を含め、地理・歴史・公民の3分野をしっかりと学習し、人物名や語句は漢字で正確に書けるようにしてください。また、日ごろから時事問題に興味を持って学習しておきましょう。

【特別選抜試験】

算数

答えのみを記入する「算数①」と、途中の解法も記述する「算数②」の二つの試験を行います。「算数①」は、問題文が2～3行程度の小問題の形式です。計算、関数、数列、場合の数、図形、論理的思考など、算数に関するさまざまなジャンルから出題します。「算数②」は、長めの文章題や図形の応用問題が3題で、途中の考え方も記述する形式です。これまでの出題分野は、整数問題、やや複雑な数列、中学数学に通じる単元、立体の計算（計算量が多いもの）などです。

佼成学園中学校

算数

計算力と比・割合の扱い、図形に関する思考力を見ます。計算問題を5問、小問題を約6問、文章題を3~4題出題します。比や割合、図形の問題のほかに、表やグラフを読み取る問題も出題しています。計算問題・小問題・文章題の最初のほうの問題をミスなく解くことが大切です。合格点に達していない受験生は、この部分ができていることが少なくありません。基本レベルから標準レベルまでの問題を中心に繰り返し練習してください。解答用紙には途中の考え方を書くスペースがあり、部分点を与えることもあります。解き方をしっかり書いておくことも大切になります。

[特別奨学生入試問題の傾向と対策]

形式・内容・出題分野などは第1回から第3回までと同じですが、より高い計算力や論理的思考力が必要となる問題を出題しています。問題集の応用編などを利用して、さらなる応用力の充実を図るとよいでしょう。

国語

読解力や表現力を中心に、小学校で学習した事項の理解度を見ます。内容は大きく分けて、①漢字の読み書き(10点程度)、②文法、基本的な語彙力を確認する問題、③登場人物や筆者の心情、人間関係の把握を見る文学的文章(小説・随筆)、④主題・指示語・接続関係・言い換えの把握、文脈の理解を見る論理的文章(評論文・説明文)の四つです(③④についての出題順は不同)。過去の記述問題では主語と述語の対応が取れていないものがあり、抜き出し問題では文章の写し間違いをしているものや、設問の条件に合わないものがあるなど、基本的なミスが見受けられました。また、文章が長い場合や難解な場合に記述が中途半端であったり、記号問題を空欄のままにしまったりしていた答案もありました。時間配分を考えて解答するようにしましょう。

[特別奨学生入試問題の傾向と対策]

論理的文章は、ほかの回に比べて抽象度が高くなっています(哲学に関する文章など)。文学的文章は、小学生男子である自分とは異なる境遇の人物(大人や女性など)の心情もとらえられるようにしましょう。主人公に感情移入しにくい場合も、表現から心情を想像するよう心がけてください。過去問・問題集などで、同じ傾向の問題を解いておくとういでしょう。また、語句については、文法・慣用句・ことわざ・敬語・熟語などの知識を問います。確実に点が取れるようにしておいてください。文法については、例年、意味・用法の識別問題の正答率が低くなっています。過去問や問題集などでしっかりした実力をつけておけば、ほかの受験生に差をつけることができます。

理科

理科についての基本的な知識、科学的な思考能力が十分にあるかどうか、日常生活での理科的な事象についての関心があるかどうかを見ます。物理・化学・生物・地学の4分野か

ら出題し、配点はほぼ均等です。①では、4 分野からおよそ 1 問ずつ小問を出題します。②～⑤は、各分野からの大問が並びます。物理分野は、滑車・光・物体の運動・電気・磁石などに関する問題、化学分野は、濃度・溶解度・ろ過・水溶液の性質などに関する問題、生物分野は、教科書に登場する実験・観察に関する問題や実験結果から少しだけ考える問題、地学分野は、太陽の動き・地震・岩石・天気などに関する問題をよく出題しています。定番の問題があるので過去問を見ておきましょう。また、その年度の理科的なニュースが題材となることがあります。なお、小学校の教科書に出てくる「二酸化炭素」など、基本的な用語の漢字間違いは不正解となるので、注意してください。

社会

基本的な知識・概念や、図表などの資料を活用する能力がどの程度身についているかを見ます。地理・歴史・政治経済の 3 分野から出題します。問題は 大問 3 題で構成され、地理 20 点、歴史 20 点、政治経済 10 点という配点になっています。内容は、基本的知識を問う問題、日常生活での社会的な出来事を題材とした問題、地図・グラフ・資料などを見て考える問題になります。歴史上の人物や地名など、基本的な用語は漢字で書けるようにしておきましょう（基本的な用語の漢字ミスは 0 点になります）。基本的な地図記号や等高線の見方、日本の川や山脈などの位置、歴史的な事件の起こった年代などは正確に覚えておいてください。基本的な統計資料も確認しておきましょう。また、日ごろから社会的に注目されていること（時事問題）について関心を持ち、考える力をつけておきましょう。

駒場東邦中学校

算数

設問は計算が正確にできるか、理解力があるか、発想力はどうかなどの基準を設けて作っています。また、作問に当たっては、みずから解答を作り上げていけるような、型にはまらない題材を選んでいきます。それだけに、問題集などを繰り返し勉強することも大切ですが、日ごろから一つの題材をいろいろな角度から分析する習慣を身につけてほしいものです。また、答えを出すに当たってどう考えたかを、ほかの人に伝えられるような表現力も身につけてください。

国語

長めの文章を読み、登場人物の置かれた状況や心情の推移を正確に読み取ったうえで、自分のことばで表現する力を測ります。限られた時間のなか、先入観にとらわれることなく、本文中に書かれていることを根拠として行間を想像する力や、出題の意図を正確に理解し、自分のことばで説明する力が求められます。漢字の書き取り問題は「とめ・はね・はらい」はもちろん、字の形にまで注意して、正確にていねいに書いてください。

理科

豊かな知性と科学的教養を身につけるための、確かな基礎知識と思考力を試す問題を出題します。単に暗記するだけでなく、学習した知識を、より深く、目新しい現象などに応用できるようにしておくといでしょう。学校で学習した内容を問う問題でも、実験や観察に基づいた科学的な考えを持っていないと、簡単には答えを導けないこともあります。ふだんから身の回りの自然現象について興味を持ち、予想に基づいて、確かめる実験をしたり、ていねいな観察をしたりして、科学的に考える習慣を身につけておきましょう。また、それをことばで説明する練習も大切です。

社会

さまざまな社会問題を学習していくために必要な基礎知識、思考力、そして表現力がどれだけ身につけているかを問う問題を心がけています。問われる知識自体は、小学校の教科書に出てくる事柄、および小学生でも知っておくことが望ましい時事的事柄に限られます。そのうえで、知識として知っているかどうかにとどまらず、「なぜ?」「どうして?」をどれだけ考えられるか、考えたことを的確に表現できるかを問います。日ごろの学習では、ただ単に断片的な知識の量を増やすのではなく、「なぜ?」「どうして?」をじっくり考えながら、地理・歴史・公民という枠にとらわれない視点も持って、理解を深め、表現するよう心がけてください。

芝中学校

算数

計算問題をはじめ、中学入試の標準的な問題から応用問題まで、さまざまな分野から幅広く出題しています。また、問題量が多いので、速く、正確に正解を導き出す計算力が必要です。

さらに、グラフを用いた問題や数え上げる問題では、思考力を問う出題をしています。後半の応用問題では、問題文をしっかりと読み取る力が必要になります。日ごろから、しっかりと読んで解く練習を積んでください。

国語

漢字問題は、前後の文脈にふさわしい意味を考えたいうで解答するようになっています。文字をていねいに書き、漢字を書けるようにするだけでなく、ふだんから「似たような漢字」の「意味の違い」に注意して学習をする必要があります。

読解問題は、説明文・物語文ともに、原則として四つの記述問題で構成されています。説明文では、問1から問3までは意味段落での部分的内容を答え、問4は全体を踏まえての論理展開を答える形になっています。物語文でも、基本的には同じです。問1から問3までは物語の重要な段階を確認し、問4では物語のクライマックスを説明しながら全体のテーマを集約するような形になっています。各問題では、解答の文の構造や要素などによって、また、問4ではさらに読解の到達レベルによって得点差がつくよう採点しています。

記述問題に対応するのは億劫かもしれませんが、練習しないと得点できるようにはなりません。まずは、問題がそもそも何を聞いているのかを把握できるようにしてください。次に、「何が」「どうする」などの文の構造を考えてください。とりあえず書き始めてしまい、結果的に主語と述語の関係がおかしくなり、結局何を答えているのかわからなくなってしまったという解答が見られます。文字数に合わせて使う単語を取捨選択し、文と文のつながりを意識しつつ、文末表現などに注意しながら、解答を作ることを心がけてください。これは、ふだんから文章を書くときに意識して訓練していないとできるようになりません。全体の設問数は少ないと思いますが、練習を重ねていくと、速く解答する力もつくと思います。文章を書けるようになることは、ただ入試問題が解けるようになるだけでなく、自分の意思を他者に伝えるコミュニケーションの手段として、生きていくうえでの重要なスキルになると、本校では考えています。

理科

「芝太郎君」の行動を追いながら、身近な現象・事象を問題とした第1問は、何げないところにある理科を感じ、考えてもらうのが狙いです。理科全般から出題し、最近の話題のテーマを入れることもあります。第2問以降は生物・化学・地学・物理分野からの出題です。ここでは基礎知識を問うとともに、計算力や想像力を必要とする問題を出題します。通常受験生が知らないと思われることは、すべて問題文のなかで説明しているので心配はいりません。解き方を何となく覚えるのではなく、その背景にある意味を考える習慣をつけておいてほしいです。重要な基礎知識はしっかりと持ちつつ、それと読み取った情報と

を組み合わせる力をつけることを期待しています。

1回・2回ともに、問題を順番どおりに解いていって時間配分がうまくできなかった受験生が毎年見受けられます。問題全体を見渡し、できるものから解答する練習をしましょう。

社会

社会科では、地理・歴史・公民の各分野から偏りなく、基礎・標準的な問題で構成することを念頭に出題しています。ただし、単純に用語を暗記するだけの学習ではなく、それらを知識として整理できているか、基礎知識をもとに推論する力があるか、ということを試せるように作問しました。高得点への鍵は、地理・歴史・公民の小問に対して、速く、正確に答え、論述にどれだけ時間を残せるかです。受験生のなかには、公民ではある程度の点数が取れているものの、地理や歴史の学習が間に合っていない人が見受けられます。まずは地理・歴史・公民のそれぞれの分野についての知識を身につけ、整理しておくことが必要です。なお、論述については、たとえば「筆者がこのように考える理由は」と問われているのに、自分の意見を述べてしまっただけでは正答になりません。問題とリード文をよく読み、指示に従って解答することが必要です。

城北中学校

算数

例年、各回ともに小問集合が 2 題、大問が 3~4 題です。すべて答えのみを書く形で、なるべく取り組みやすい順に問題を配置しています。単位は解答用紙に記入してあります。小問集合は、計算問題、割合（食塩水など）、規則性、場合の数、図形などの分野からよく出題しています。後半の大問は、グラフを読む問題、文章題、場合の数、図形問題（平面・立体）などの思考力を問う問題です。また、途中の考え方やどこまで求められているのかを評価したいと考え、問いを細かく設定している大問もあります。

採点に関しては、答えのみです。基本的に○か×で判定します。ただ、約分のミス（既約でないもの）に関しては減点しています。帯分数か仮分数かはどちらでも構いません。

国語

2017 年度から小説の読解問題と漢字問題の大問 2 題構成とし、現在に至ります。配点の比率は 9 : 1 です。読解問題では、長文記述に加えて短文記述の問題も出題しています。記述の配点は高めに設定しており、部分点の幅も広く取っています。主語のない答案、文末の不備、句点のない答案、誤字・脱字（漢字の間違いを含む）、話しことばで書かれている答案は減点します。指定字数から超過・不足している答案は 0 点です。漢字問題では、字の巧拙は問いませんが、正しくていねいに書くという意識を持ってほしいです。

理科

配点は物理と化学が各 20 点、生物と地学が各 15 点です。実験・観察に基づく問題、計算力が問われる問題（主に物理・化学）、グラフ作成、作図、記述問題、お絵かき（スケッチ）問題（第 3 回のみ）などをよく出題します。漢字指定の問題のみ、漢字での解答を求めます。指定がなければ、ひらがな・カタカナでも構いません。

社会

配点は地理と歴史が各 25 点、公民が 20 点です。漢字指定の問題で、ひらがなやカタカナで答えた場合は×となります。指定字数や氏名（姓名）にも留意してください。

地理では、地図・グラフ・表の読み取り問題は、ほぼ毎年出題されています。歴史では、すべての時代から出題するので、各時代の特徴や文化史まで押さえておくことをお勧めします。文物の写真問題も出題することがあります。公民の対策としては、地理も同様ですが、秋に発売される「〇〇年の重大ニュース」のような書籍を読み込んでおきましょう。

巣鴨中学校

算数

50分・100点満点です。2019年度から出題形式が一部変わりました。大問数は5題から4題になり、「小問集合」を設けています。大問の配列は難度順ではありません。①は答えのみを書く「小問集合」です。②～④は文章題・平面図形・空間図形などで、それぞれ2～3問の小問があり、これは難度順になっています。「式」と「答え」を書く欄があり、「式」も採点対象で部分点もあります。「答え」だけしか書かれていない場合は、正解でも減点する場合があります。字はていねいに書いてください。方程式を利用してかまいませんが、何をXとしたかを明記してください。全設問数（小問数）は15問程度です。

算数選抜

算数1科目（60分・100点満点）の成績だけで合否を判定します。大問数は5題で、①は計算問題です。②～⑤はⅠ～Ⅲ期の①～④とほぼ同じ出題形式です。「解き方・考え方」を文章で答える問題（小問）が1問あるので注意してください。2020年度の問題を参考にしてください。

国語

50分・100点満点です。①は漢字10問で、1問1点です。小学校の学習漢字から出題しますが、漢字そのものを知っていても、ことばを知らなくて書けないということもあります。②と③は論説・説明文と随筆文で、それぞれ2000～3000字です。二つを合わせても、6000字を超えることはありません。小説や詩・短歌などは出題していません。筋道を追って文章を読めるか、論理的に考えられるかを問います。随筆では心情を問う問題もあります。記述問題の総字数は100～200字程度です。中間点・部分点もありますので、最後まで書き通すようにしてください。

理科

30分・50点満点です。物理・化学・生物・地学の4分野から1題ずつで、配点は各12～14点です。それぞれのテーマを決めて出題します。記号・数字は読みやすく、はっきりと書いてください。漢字指定の問題もあります。計算問題では四捨五入の位にも注意してください。生物・地学については、小学校レベルの知識をしっかりと覚える必要があります。物理・化学は計算があり、論理的思考力を試す問題になっています。30分で40問前後の出題になりますので、知識問題の処理や計算を正確に、速くできるようにしてください。

社会

30分・50点満点です。配点は、地理20点、歴史20点、公民10点となっています。3分野にまたがる総合問題は出題しません。2017年度までは1問2点の問題を25問という構成でしたが、2018年度から3～5問増やしました。記号はていねいに書き、漢字指定の設問は必ず漢字で答えてください。設問の文章量や地図・グラフなどを増やし、短めの論述も出題します。

その他関連情報

各科目とも、Ⅰ～Ⅲ期はほぼ同じ形式・レベルで出題します。合否は4科目の合計点で判定します。合格の目安となる正答率は60%です。科目ごとの基準点はありません。

成城中学校

算数

冒頭に計算問題が 2 題あります。文章題は幅広い分野から出題します。問題数は 10 題前後で、解答数は 20～25 程度です。解答用紙には解答のみを記入する方式なので（途中式は見ません）、計算間違いのないよう十分な注意が必要です。

国語

大問は 3 題で、1 題は漢字の読み書きや、言語知識を問う問題（配点 20 点）です。2 題は長文読解で、文学的文章（小説など）と論理的文章（評論など）からの出題です。長文読解の設問はていねいな読み取りが必要です。記述問題もあります。

理科

大問を 3 題出題します。それぞれの配点は、ほぼ 20 点ずつです。基本的な知識を確認しておきましょう。また、実験データの表やグラフから規則性を見いだすことも大切です。計算問題は答えのみが採点の対象となりますので、ミスのないよう十分に注意しましょう。

社会

地理・歴史・公民の各分野から均等に出題します。人々の暮らしを成り立たせているさまざまな背景や条件について、どのくらい関心を持って学んできたかを問いたいと考えています。例年、地形図に関する問題や時事問題を出題しています。文章による記述問題もあります。

世田谷学園中学校

算数

大問 6 題で構成しています。大問 $\boxed{1}$ は、四則計算や 1 行問題と呼ばれるもので、ミスをせず、しっかり得点してほしい基本的な問題です。大問 $\boxed{2}$ ～ $\boxed{4}$ は解答のみの客観問題なので、取りこぼしのないよう解答してください。大問 $\boxed{5}$ ・ $\boxed{6}$ は記述問題です。部分点もあるので、大問 $\boxed{1}$ ～ $\boxed{4}$ を解答してから、じっくりと考えて、ていねいに記述してください。中学入試定番の問題をきちんと解けるように、苦手な単元をなくしておくことが大切です。

国語

文芸的文章や説明的文章などを素材に、大問 1 題を出題します。長文問題となりますので、素材文をじっくりと読むことが大切です。設問は、主題・心情・論理・変化・対比など、それぞれ文章の核となる部分を中心に、語句の意味、指示語の内容、文脈の把握や思考力を問う問題などをバランス良く出題します。漢字は、素材文の中から、5～10 問程度の出題を予定しています。

理科

大問 3 題で構成しています。1 次から 3 次試験まで、物理・化学・生物・地学の 4 分野から合計 3 題を出題します。観察や実験を通しての出題が多いので、机上の知識だけではなく、ふだんから実験などに積極的に参加していく姿勢が大切です。思考力を要する計算問題もあるので、筋道を立てて計算する力を養っておきましょう。また、数値を問う問題では、特に指示がないかぎり、分数で答えないようにしてください。

社会

大問 3 題で構成しています。1 次から 3 次試験まで、地理・歴史・公民の 3 分野から出題します。大問 $\boxed{1}$ は地理、大問 $\boxed{2}$ は歴史、大問 $\boxed{3}$ は地理・歴史・公民の総合問題で、20 字～50 字程度の記述問題も複数出題されます。地理・歴史・公民いずれの科目も、基本事項や用語をしっかりと押さえることが大切です。また、統計・史料・写真といった、資料を分析して解答する問題にも対応できるように、物事を多面的に捉えることを意識しながら学習しましょう。なお、漢字指定でない設問は、平仮名で答えても構いません。

算数（算数特選）

大問 5 題を出題します。大問 $\boxed{1}$ ・ $\boxed{2}$ は解答のみで、標準レベル以上の客観問題で構成されています。1 次から 3 次試験の大問 $\boxed{3}$ ・ $\boxed{4}$ 程度のレベルに相当するので、確実に得点してほしい問題です。大問 $\boxed{3}$ ～ $\boxed{5}$ は記述問題で、前半の客観問題をきちんと解答してから、じっくり考えて解いてください。1 次から 3 次試験の後半の記述問題と同程度か、それ以上の出題レベルとなります。参考となる問題は少ないですが、1 次から 3 次試験の過去問を解くことが、そのまま対策につながります。まずは定番の問題をきちんと解けるように、苦手な分野をなくし、後半の応用問題の類題で何度も演習をしましょう。

高輪中学校

算数

「A・B・C 日程」は大問が 5 題、小問が 17～18 問前後で、基本的には答えのみを記入します。①は基本的な計算問題、②は標準的な文章問題で、途中式を書かせる記述形式の問題も 1 問出題します。③は速さ、規則性、割合と比、和と差など、④は平面図形、⑤は立体図形の標準問題から応用問題となっています。

2 月 2 日の「算数午後入試」は標準問題から応用問題までの大問 4 題で、①は規則性または割合と比など、②は速さ、③は平面図形、④は立体図形です。答えのみではなく、途中経過の記述・作図なども採点の対象となります。方程式の使用も認めています。

国語

大問は 3 題です。①は漢字の知識とことばの問題、②は随筆や説明文などの論理的文章、③は小説からの出題です。②と③は読解問題が中心で、筆者の考え方や、登場人物の心情をつかむことが大切となります。

理科

大問は物理・化学・生物・地学の 4 分野から各 1 題を出題します。基本的な事柄を問う問題から応用力を試す問題まで幅広く出します。各分野とも配点は均等で、それぞれ 15 点前後です。選択肢から答える問題もありますが、計算問題・説明問題・作図問題なども出題しており、定規が必要な場合もあります。

社会

大問は 3 題、配点は各 20 点前後となっています。①は地理的総合問題、②は歴史的総合問題、③は公民的・時事的総合問題です。日常生活のなかで社会の動きに関心を持つことが大切です。多くの問題に字数や漢字などの指定があります。人名・地名、事柄、事件の名前などは、漢字で正しく書けるようにしてください。

東京都市大学付属中学校

算数

〈出題方針〉第1回から第4回まで①は小問集合、②～⑤は大問です。①の小問集合は、計算・割合・特殊算・図形など幅広い分野から基礎的な一行問題を出題します。②～⑤の大問は、文章題（数量）2題、図形2題の予定です。配点はすべて1問につき5～6点です。出題傾向は例年どおりなので、過去問にしっかり取り組んでください。なお、問題の一部に記述解答を取り入れています。図に補助線を加えたり、考え方を書いたりする形式で、途中式は求めません。

〈受験生へのアドバイス〉難問・奇問は出題しません。標準的な問題を確実に解けるようにすることを心がけてください。数量分野では、線分図、面積図、速さに関する問題、場合の数の問題について、図形分野では、特に比を用いた面積・体積の問題について、よく学習しておきましょう。計算練習は、市販の問題集でよいので、速く、正確にできるように毎日欠かさず取り組みましょう。

〈採点基準〉帯分数と仮分数のどちらで答えても可ですが、約分していない分数や、最も小さな数字にしていない比、単位が重複しているものは1点減点します。

国語

〈出題方針〉基礎的な力（読解力・知識）を問うことを中心として問題を作成しています。文章問題において特に意識していることは、多様な文章に対応できる力です。説明文および物語文では筋道立てて正確に読み取る力を測り、詩では比喩や省略などの表現を手がかりとした読解力を見ます。また、知識問題においては、ことわざ・慣用句や漢字の成り立ちなどの知識を問うようにしています。

〈受験生へのアドバイス〉まず、苦手なジャンルをつくらないように、さまざまな文章を読むことを心がけてください。また、知識問題に関しては、やみくもに暗記をするのではなく、資料集を活用したり、辞書の例文を読んだりして、工夫して覚えるようにしてください。問いに対して的確に答えるために、設問をよく読むことも大切です。過去問を解き、出題パターンや問いの表現などに慣れておくことをお勧めします。

〈採点基準〉漢字の書き取りはもちろん、記述問題でも漢字・ひらがなを問わず、字の体裁がおかしいもの、画数が正しくないものなどは減点対象としています。記述問題については、原則として、指定した字数の8割は書くようにしてください。5割未満の場合は採点対象外となります。また、字数、誤字、キーワードの欠落などによって、減点とすることがあるので注意しましょう。

理科

〈出題方針〉物理・化学・生物・地学の4分野からバランス良く出題します。作問に当たっては、「理科全般の基礎的な知識を持っていること」「実験データやグラフが読み取れること」「問題文から必要事項が読み取れること」「数値計算ができること」の4点を重視しています。

〈受験生へのアドバイス〉4分野について偏りのない学習を行い、基本事項を確実に押さえ、現象の説明ができるようにしてください。また、用語は正確に覚えておくことが必要です。練習問題や過去の入試問題を、時間配分に気をつけて解いてください。問題の前文（説明文）や会話文がヒントになることもあるので、注意深く読みましょう。

〈採点基準〉説明問題で部分点を与える場合があります。記述問題では、漢字指定の場合を除き、ひらがなで書いても減点はしません。

社会

〈出題方針〉地理・歴史・公民の3分野からバランス良く出題します。地理においては、雨温図・統計グラフなどを正確に読み取ることができるかどうか、歴史では、時代ごとの政治・経済・文化の違いを理解しているかどうか、公民では、憲法や国内政治の仕組みを理解しているかどうか、環境問題や国際関係などを含めた時事問題に興味・関心があるかどうか、といったことを見ます。なお、3分野に共通して、人名・地名・事件名など、小学校で学習した社会科の基礎用語については正確に書くことが大切です。漢字指定の場合は、問題文中に指示してあります。

〈受験生へのアドバイス〉3分野にわたって偏りのない学習を行い、基礎用語を正確に理解しておいてください。また、日ごろから新聞やテレビの報道番組をチェックし、時事問題にも関心を持つよう心がけてください。練習問題や過去の入試問題を解いて、理解を深めておくことも大切です。

〈採点基準〉指定の書き方でなければすべて不正解となります。特に漢字指定の問題は、誤字・ひらがな・カタカナはすべて不正解で、△はありません。

桐朋中学校

算数

中学入学後の基礎となる計算力や図形についての知識を問う問題から、算数の総合的な力を見るための応用問題まで、特定の分野に偏らないように出題しています。問題はほぼ難度順に並び、例年、記述問題を出題しています。記述はどのように考えて答えを導いたかを確認するものです。式だけでなく、図や表などを利用してよく、途中の考え方が採点者に伝わるように書き表すことが大切です。自分の頭で考え、しっかり手を動かして問題の構造を理解したり、規則性を見つけたりすることになる出題を心がけています。

国語

受験生に読ませたい文章から出題することを第一に考えています。これから中学生になろうとする児童に読んでもらい、物事について深く考えるきっかけや、新たな視点を得る機会としてほしいからです。設問については、本文の内容を自分のことばでわかりやすく伝える力を見られるように作成を心がけています。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から偏りなく出題しています。それぞれの分野ごとにテーマを持たせ、基礎的な知識・理解を問う問題から発展的な問題まで、バランス良くなるように配慮し、平均点は6～7割になるようにしています。具体的には、日常生活につながる題材を使い、身近な生活のなかにある理科を意識した問題作りをしています。また、こつこつと勉強してきた受験生が点数を取れるように、奇をてらった問題は出題しません。

社会

歴史・地理・公民の分野ごとにテーマを考え、「知的関心」を持ってもらえるような出題をしています。基本的な事柄を問い、受験生が達成感を得られるように、平均点7割を想定した問題作りをしています。また、歴史資料や地図帳を使っての学習、統計表・グラフを読んでわかったことを表現する力、時事問題への関心なども見られるような出題を心がけています。

獨協中学校

算数

基礎的な計算力、文章問題を正しくとらえる力、図形を見て考える力などを試します。問題集を利用して学習するときには、図を描いたりしながら、さまざまな解き方を自分で考えるように心がけてください。実際の入試問題には、途中の計算を解答用紙に書くものがあります。そこに書いてある解答を導くための式や考え方を評価し、部分点を与えることがあります。ただし、必要のない式や間違った解き方はきれいに消しておくことを忘れないようにしましょう。

国語

漢字の書き取りは、画数を意識しながらていねいに書いてください。乱雑に書かれたものは正解になりません。長文問題では、細かな知識よりも読解力を重視します。物語文の場合は、さまざまな情景や登場人物の心情を正確につかむこと、説明文の場合は、文章全体の筋道を読み取ることが大切なので、情景や心情を思い浮かべながら読んだり、論理的に読んだりする訓練を、日ごろからしておきましょう。設問に答えるときは、傍線部付近だけを読むのではなく、文章全体から考える習慣を身につけておくことが大切です。また、記述問題の場合は、必要に応じて文末に「こと。」「から。」を付けることを忘れないでください。文末表現が不適切な解答は減点の対象です。

理科

小学生の皆さんが日常の生活のなかで経験したり、関心を持ったりするだろう題材を取り上げて、そのなかに含まれる科学的なものの考え方や知識を問う問題を中心に出题します。一見、見慣れない問題のように思えても、問題文をよく読み、問題文に導かれながら考えを進めていくと、答えが出てくるようになっているので、じっくりと考えてください。高度な知識よりも、結論を導く過程（正しい作業や考え方）を重視しています。基礎的な計算力（理科では小数で答えを求めます）も問いますので、ふだんから練習しておくといでしょう。

社会

教科書や参考書の内容を中心に、基本的な事柄の理解、資料を読み取る力、社会に対する関心などを確認します。地理・歴史・公民（時事を含む）の大きく3分野からバランス良く出题します。基本的な地名・人名・用語は、漢字指定での解答となります。「ひらがな」はもちろん、乱雑な字も正解にはなりません。正確に書いて覚える練習をしておきましょう。基本的な事柄を説明したり、資料を読み取ったりするような思考力を問う説明問題も出题します。資料に即して読み取れたことや考えたことを文章にしていきましょう。

日本大学豊山中学校

算数

小学校で学習する内容から、計算・図形・整数・比・単位などの基本的な問題に加え、発想力・論理的思考力を問う応用問題も出題しています。

国語

ことばの知識問題、説明文、小説から構成されています。知識問題は、漢字の読み書き・部首、ことわざや四字熟語の意味など基礎的なものです。文章題では選択問題を中心に、記述問題も含めて接続語や指示語、空欄補充、内容合致や心情の説明など、基本的な問いを中心としています。

理科

「生物と環境」「物質と変化」「運動とエネルギー」「地球と宇宙」の各分野からバランス良く出題しています。実験・観察から思考させる問題や、理科に関する時事的な出来事を問う問題もあります。

社会

地理的分野では日本について、地域の気候や特色、生活とのかかわりを学習しておいてください。資料や地図から読み取る力も試します。歴史的分野では重要な用語と人物を学習し、それらを「流れ」で理解しましょう。公民的分野は時事的な内容を中心に、政治や国際関係について学習しておくといでしょう。

本郷中学校

算数

例年どおり、大問は5～6題です。計算問題が2問、一行問題が4～7問で、あとは文章題などです。合計15問前後を出題します。文章題のなかには、グラフを読み取る力を見る問題や、図形（平面・空間）の問題が含まれており、なるべく取り組みやすい問題を先に配置するようにしています。中学校での数学の授業についていけるよう、速く正確に計算できるか、きちんと考えられるかを問いたいと考えています。

国語

論説文や説明文などの論理的文章と、物語文や随想文などの文学的文章からの大問を1題ずつと、漢字の大問の計3題を出題します。読解問題をはじめとして、語句の意味や空所補充など、さまざまな形式で出題する予定です。記述問題では、文末処理や誤字による減点があります。正確に書かれていない文字は、得点にならないこともあるので、ていねいな字で書くように心がけてください。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野から出題します。4分野の配点はほぼ均等で、出題傾向は大きくは変わっていません。基本的な知識や計算力などの基礎力を身につけているか、その基礎力を応用することができるかを問う問題です。表やグラフを読み取る力や、実験に対する考察力を問う問題もあります。身近な生活のなかにある科学に興味を持って勉強に取り組んでください。最近話題となった自然科学に関するニュースなどもチェックしておくといでしょう。

社会

地理・歴史・公民の3分野から出題します。配点はそれぞれ25点ずつです。地理分野では、「地図・統計・グラフなどの資料」が読み取れるか、それぞれの地域の特色を理解しているかを問います。特に、地形図の読図の問題は必ず出題します。歴史分野では、丸暗記ではなく、歴史の流れをしっかりと理解しているか、また、基本的な知識を正確に持っているかを問います。公民分野では、基本的な知識に加えて、新聞やニュースなどに興味を持って勉強に取り組んでいるかなどを問います。憲法を読み、関連する基本的な知識を整理しておいてください。漢字の指定もあります。正確に書かれていない文字は得点にならない場合があるので、ていねいな字で書くように心がけてください。

明治大学附属中野中学校

算数

50分・100点満点です。計算から文章題、平面・立体図形まで、小学校で学習する全範囲から出題します。例年の問題構成としては、最初に計算・小問が8～10問程度あり、その後、文章題、グラフの読み取り、平面・空間図形などの問題が8～10問程度続きます。配点はほぼ均等です。本校では難問・奇問といわれるような内容は出題しないので、確実に正解を導けそうな問題から取り組み、速く正確に計算する練習を着実に行ってください。

国語

50分・100点満点で、前年度から大きな変更点はありません。問題構成としては、例年、長文読解が60～70%、小問が30～40%です。記述式問題も多く、誤字・脱字がある場合や、答え方が不正確な場合（理由を問われているのに「～こと。」と答えるなど）は、減点の対象になります。また例年、指示語、接続詞、主語、ことばの係り受けの問題などを出題します。小問については、小学校の学習漢字の範囲内から、漢字の読み書きを20点前後出題します。字はていねいに書くことを心がけてください。そのほか、四字熟語、慣用語、ことわざ、語の意味、ことばのきまり（文法）などからも出題します。

理科

30分・50点満点で、物理・化学・生物・地学の4分野から出題します。解答形式は「選択肢から選ぶ」「語句を解答する」「計算による数値解答」が多く、10～20字の記述式問題を出題する場合があります。主な内容は、「知識を問うもの」「法則を使って論理的な思考力を問うもの」「実験・観察に関するもの」「分野を超えた総合的なもの」などです。物理は法則を利用した計算が多いので、問題演習にたくさん励んでください。化学は反応の量的な計算と、物質に関する知識を増やす学習に励みましょう。生物は植物と動物に関する内容ですが、学ぶべき量が多いので、学習量に比例して必ず力がつくはずで、地道な学習を続けてください。

社会

30分・50点満点で、地理・歴史・公民の3分野から出題します。解答形式は「選択肢から選ぶ」「語句を解答する」「短い文章で解答する」などがあり、1問当たりの配点は1～3点です。地理については、日本地理が中心ですが、基礎レベルの世界地理を出題することもあります。グラフを読み取る問題もよく出題しています。地名については、地図帳で位置を確認する習慣をつけておいてください。歴史については、事柄を単独で覚えるのではなく、原因から結果までの全体の流れを理解するようにしましょう。年表を活用した学習が効果的です。文章で解答する問題は、歴史で出題することが多くなっています。公民については、日本の政治が中心です。世界については、基礎レベル程度です。学習内容はそれほど多くないので、漏れのないようにしましょう。また、過去1年間の時事を地理・歴

史・公民の3分野に絡めて出題します。そのため、新聞には日ごろから目を通し、用語・地名・人名を漢字で正しく解答できるようにしておきましょう。

明法中学校

算数

試験時間は第1回午前が50分で、第1回午後と第2回午前・午後はともに40分です。配点はすべて100点です。大問は5題あり、計算問題、基礎知識を見る小問と、思考力を見る問題とを出題します。過去問を中心に学習し、特に例年出題される分野は、どんな形式で出題されても大丈夫なように、問題集などでしっかり解法を身につけておくことが大切です。また、計算をていねいに行い、ケアレスミスによる失点をしないよう注意してください。

国語

試験時間は第1回午前が50分で、第1回午後と第2回午前・午後はともに40分です。配点はすべて100点です。大問は2題で、1題は論理的な文章、もう1題は文学的な文章が題材となります。基礎的な問題として、漢字の書き取りと読み、語句の意味や適切な接続語の選択などを出題します。この分野では確実に得点できるようにしましょう。応用的な問題として、内容把握(選択式・記述式)を出します。作文は第1回午前で出題します。配点は15点程度で、字数は150字程度です。8割以上は書いてください。日ごろから自分の考えや気持ちを相手に伝えられるよう心がけて文章を書きましょう。

理科

入試科目に理科のある第1回午前・第2回午前とも、試験時間は30分で、60点満点です。物理・化学・生物・地学の各分野から偏りなく出題します。内容は理科についての基礎的な知識問題、実験や観察から考えていく問題、身の回りの理科学的な事柄についての関心を見る問題です。基礎的なものが多いので、まずは基本問題を繰り返し学習して、基礎的な知識を確かなものにしましょう。

社会

地理・歴史・公民の3分野から出題します。地理分野では、必ず地形図に関する問題を出題します。都道府県の名称は漢字で書けるようにして、なおかつ場所も答えられるようにしましょう。公民分野では時事問題もあります。試験時間は第1回午前・第2回午前とも30分で、60点満点です。各分野ともほぼ均等の配点です。過去問を研究して傾向をつかみ、よく出題される基礎的な知識を固めておきましょう。

適性検査型入試

第1回午前に行います。都立立川国際中等教育学校をはじめとする、公立中高一貫校の受験者向けの問題を作成します。適性Ⅰ型・Ⅱ型を実施します(Ⅲ型は実施しません)。

立教池袋中学校

算数

基本的な問題から応用問題まで幅広く出題しています。的確で素早い計算力はもちろんのこと、文章を読み解き、多くの条件を整理し、筋道をしっかりと立てて考えることを要求する問題もあります。「この手順でやっていけば答えにたどり着く」ではなく、日ごろからどんな簡単なことにも「なぜだろう？」と疑問を持ち、「もっと良い方法は？」「もっと良い考えは？」という姿勢で問題に取り組むようにしてください。

国語

文章の読解力とことばの知識、または詩や俳句の読みを問う問題を出題します。文章はそれほど長くないものを2～3題出します。設問だけを見て答えるのではなく、文章全体をしっかりと読み、理解したうえで答えることが大切なので、ある程度の読む速さ、文をとらえる速さも必要になってきます。また、設問の意図を考えて答える力も問います。詩や俳句などを出題する場合は本校の生徒の作品を主に使います。作品中に問題を解くためのヒントが見えていることが多いため、これも作品をよく「読む」ことが必要となります。

理科

理科の4分野（物理・化学・生物・地学）すべてにわたって、できるだけ偏りのないように出題しています。実験・観察の結果から推定できる事柄や、その結果が意味するものは何かを問うような内容を考えています。そのためには、イメージができるよう、実際の実験・観察に親しんでおくことが重要です。また、結果の多くは、グラフによって表されます。グラフの作成の仕方を含めて、グラフの読み取りの練習も行って、理科の思考能力を高めてください。なお、計算問題もできるだけ入れるつもりです。理科の計算は、単位を伴うことが多いので、計算の意味の理解を念頭に置いて、計算能力を養ってください。

社会

本校の社会科は、主体的に社会を作り上げる「市民」としての自覚を生徒に持たせることを教育目標の一つとしています。したがって、基本的な知識を習得するのみにとどまらず、社会的な事象を資料などの分析を通じて論理的に説明し、さまざまな視点から解釈し、自分の意見を持つという活動を重視します。入試問題は地理・歴史・総合の3分野で構成されますが、こうした力があるかを精査するために、基本的な知識・語句は漢字で答えること、資料や図表を読み解いて説明することを求めます。分野によっては、自分の意見を述べることが求められる場合もあります。